

介護老人保健施設オアシス21 療養棟

症 例 概 要 利用者氏名：F・K様（女性・70代） 要介護4

経過：入所前、ご自宅で便意、尿意がなく常に垂れ流されている状態。また、深夜の徘徊や暴言もあり、ご家族での介護に限界を感じられ、オアシス21の認知症専門棟に入所。多職種が関わる生活リハビリから、失禁もなく在宅復帰できたことでご家族は感動され、申し込んでいた特養をキャンセル。オアシスと自宅での交互の生活を選ばれました。

内 容

F様は釧路でご主人と暮らしていましたが、ご主人が亡くなってからは独居生活。また認知症の進行から家はゴミ屋敷となり、失禁しても更衣ができず、数ヶ月も入浴してない状況でした。そのため、札幌の長女に引っ越すことになりました。

札幌に引っ越された後、デイサービスとショートステイを利用していましたが、便意、尿意がなく常に垂れ流されている状態。また、深夜の徘徊や暴言もあり、ご家族での介護に限界を感じられ、オアシス21の認知症専門棟を見学した後、平成30年2月に入所となりました。

入所直後、要介護1から要介護4へと区分変更。

在宅復帰を目標に認知症短期集中リハを算定。排泄を中心とした日課の訓練を介護生活リハビリと組んで行いましたが、介護拒否、意欲が無くなかなか進みませんでした。

まずは、意欲を出してもらえるよう、リハビリ職員が日課表「今日も1日元気に過ごそう」を作成。1時間毎に日課（トイレ、食事、歯磨き、体操）などを入れ、都度内容をご本人に書いていただく。少し生活のリズムが取れてきた頃、ゴミ箱作りやテーブル拭きなどの役割も追加。同時に排泄動作の訓練も継続していきました。

拒否もなくなり失禁も減少したため、在宅復帰に向けた生活リハビリを行いながら、ご家族に在宅復帰を提案。初めは心配されていましたが、1泊の外泊などを繰り返しながら訓練を行い在宅復帰が実現しました。

自宅では失禁は一度もなくご家族も驚かれています。

そのため、自宅にいる期間に申し込んであった特養から入居の案内がきましたがオアシスがあることで在宅生活の自信を持たれ、ご家族が特養をキャンセル。自宅とオアシスを交互に利用する方法を選ばれました。

自宅では介護が思うように出来なかったF様に対し、段階的にリハビリ計画を変更、清掃員を含む他職種が生活リハビリに関わることで、失禁も無い在宅生活が実現し、ご家族には安心を超える感動を感じただけ、特養を断りオアシスと自宅の交互の生活を希望されたことでキラキラ介護賞に推薦いたします。